

帝京大学女性医師・研究者 支援センターNEWS

Teikyo University Support Center for Women Physicians and Researchers



vol. 11

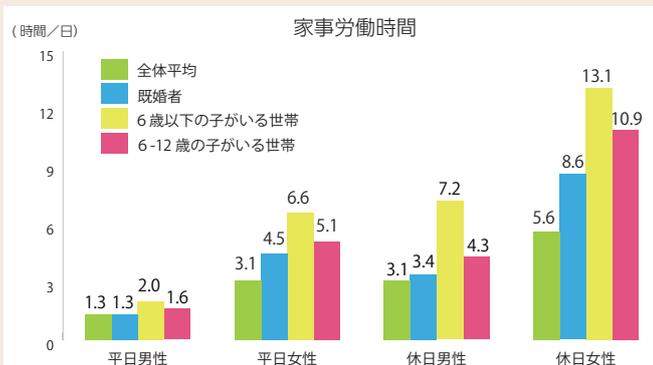
Apr. 2018

平成 28 年度「育児・介護と職場環境と仕事満足度に関する調査」結果報告

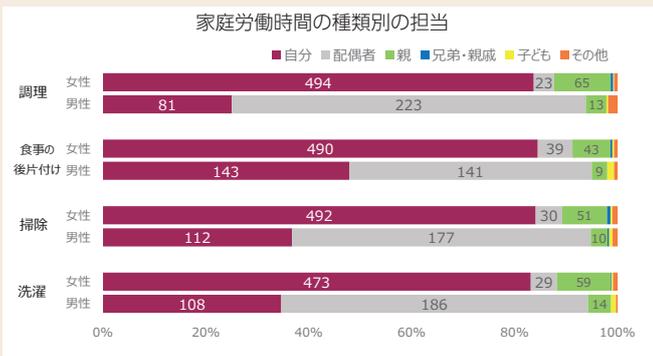
2017年2月に当センターが実施したアンケート調査結果の一部をご紹介します。このアンケートは昨年教員および附属3病院に所属する職員（医療従事者）を対象に、就労、育児・介護状況、仕事への満足度等を把握する目的に実施し、981人の方にご協力いただきました（回収率28%）。ご協力いただきました先生方、職員の皆様、誠にありがとうございます。本アンケートで得られた結果を今後の活動にいかしてまいります。その他の結果については、ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください（http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/support_center_houkoku201702.pdf）。なお、2月に実施した平成29年度学内ニーズ調査（WEB）につきましても、解析を行い当センターのホームページとニュースレターに掲載する予定です。

1. 家庭労働の負担状況と家事分担率について

男女別の家庭労働時間について見ると、平日・休日ともに女性の方が労働時間が多いことが明らかとなりました。さらに養育する子どもの年齢層で分けて見た場合、男女ともに6歳以下の子がいる世帯の労働時間が高くなっており、その次に6歳～12歳の子がいる世帯、既婚者世帯と続くことから、子どもの年齢が小さいほど、育児に多くの労働時間を充てなければならないことが推察されます。



家事分担の比率について見てみると、女性は高いものから順に「調理」「洗濯」「掃除」「食事の後片付け」、男性は高いものから「食事の後片付け」「掃除」「洗濯」「調理」となりました。食事の後片付けについては回答された男性の約半数が「自分が担っている」と回答しており、本学には男女共同参画意識の高い男性が多いことがうかがえます。家事分担についてははまだ女性が占める割合大きいものの、男女共同参画意識の浸透により家事に協力的な男性が増えてきていることもわかります。



2. 介護状況について

介護状況については、女性51名（8.2%）、男性36名（10.6%）が主介護者もしくは主介護者ではないが介護を行っており、その比率に男女差は見られず、被介護者が同居している割合についても男女差は見られませんでした。今後少子高齢化がさらに進むことになれば、働く世代にとって介護は女性のみならず、男性にとっても最大のライフイベントになることが予想されます。

	全体	女性	男性
女性	626 (64.8)		
年齢	39.1 ± 12.4	35.4 ± 10.5	46.0 ± 12.8
勤続年数	8.6 ± 7.9	8.9 ± 7.7	8.1 ± 8.1
未婚	387 (39.8)	312 (50.3)	71 (21.1)
平日の家庭労働時間	2.4 ± 2.7	3.1 ± 3.1	1.3 ± 1.1
休日の家庭労働時間	4.8 ± 4.6	5.6 ± 5.0	3.1 ± 3.1
介護の状態			
主介護者	24 (2.5)	14 (2.3)	10 (3.0)
主介護者ではないが介護	65 (6.7)	37 (5.9)	26 (7.7)
していない	884 (90.9)	572 (91.8)	303 (89.4)
同居の被介護者あり	53 (5.5)	36 (5.8)	15 (4.4)

3. 女性の労働に関する法律の知識について

女性の労働に関する法律の認知状況・知識の結果をしてみると、正答数の平均は、男性の方が少し低いという結果が出ました。問いの中で正答率が低かったのは「育児休暇は労働基準法で認められている」（「誤り」、正しくは育児・介護休業法で認められている）で、育児休暇の正確な知識のさらなる普及の必要が認められました。また、「産前休暇は取得義務がある」との問いについては男性の方が正答率が高いという結果が出ています。

4. 現在の仕事の満足度について

現在の就労状況への満足度・不満足度については、女性はいずれの回答でも男性より満足度が低く、仕事に不満足を示していることが示唆されました。

	全体	女性 (n=626)	男性 (n=339)
私は、現在の組織を去ることに考えてよく考える	2.5 ± 1.0	2.7 ± 1.0	2.2 ± 1.0
私は、積極的に現在の組織の代わりを探している	2.2 ± 0.9	2.3 ± 0.9	1.9 ± 0.9
現在の組織を去るならばすぐに去るだろう	2.2 ± 1.0	2.4 ± 1.0	1.9 ± 0.9

平成 29 年度活動報告

研究支援員制度・保育施設利用補助制度・ベビーシッター割引券発行事業

研究支援員制度

研究支援員制度は、さらに多くの研究者に支援が届くよう、上期・下期の二期制度を取り入れました。上期（4月～9月）は5名、下期（10月～3月）は5名に支援員を配置しました。今年度も同様に二期制度で運用し、上期は4月より配置を開始しています。下期配置分の募集は8月を予定しています。詳細は当センターホームページ「各種プログラム 女性研究者支援制度」に募集内容が掲載されていますのでご覧ください。

研究支援員制度 配置人数内訳					
()内は支援員数					
上期	医学部	理工学部	助産学専攻科	医療技術学部	経済学部
	1名	1名	1名	1名(2名)	1名
下期	医学部	理工学部	助産学専攻科	文学部	
	1名	2名	1名	1名	

保育支援制度（保育施設利用補助・ベビーシッター割引券発行）

育児との両立をはかる保育支援制度は、平成29年度より二本立てとしました。一つは、教員の方を対象に、育児と研究・学校業務が重なりお子さんを保育施設にあずけた場合の利用料を補助する「保育施設利用補助制度」です。もう一つは、教員・職員の方を対象に、育児と仕事がぶつかりベビーシッターを利用する時のために割引券を発行する「ベビーシッター割引券発行事業」です。それぞれ使いやすさが異なりますので、ホームページなどに掲載される要項をご覧ください。ご不明な点があれば末尾のセンター連絡先にお問い合わせください。※ベビーシッター割引券発行事業は、内閣府ベビーシッター派遣事業開始後の運用開始となります。

保育施設利用補助制度		ベビーシッター割引券発行事業	
利用者数	4名 (理工学部1、薬学部1、理工学部2)	利用者数	3名 (医学部2、文学部1)
利用回数 (のべ)	6回	発行枚数(のべ)	40枚
		利用枚数(のべ)	21枚

男女共同参画推進委員会・WG活動・学長提言

本学男女共同参画・女性研究者支援の企画立案・プロジェクト実施を行う男女共同参画推進委員会内に、平成28年度からワーキンググループ(WG)を立ち上げました。WGは「男女ともに働きやすい職場環境を整えるため」に4つのテーマ「意識改革」「環境整備」「教育・研究力向上」「女性比率向上」に分かれて活動しています。男女共同参画推進委員がWGメンバーを兼ねることで、4つのWGの活動をコラボレートさせて1つのムーブメントにしていくことをめざしています。平成28年度の活動報告は、「男女共同参画推進に関する提言」としてまとめられ学長より発信されました。2年度目にあたる平成29年度も、隔月のWGメンバーによる検討を継続し、男女協働が大学に根づいたものになるよう次の段階をめざして活動しています。(平成29年度男女共同参画推進委員会・WG活動は5月25日、7月27日、9月28日、11月30日、1月25日、3月22日に実施しました。)

FD活動

学長より全学に向けて発信された「男女共同参画推進に関する提言」の中において、男性と女性が協働する意識や女性を登用する意識を学内で浸透させるため、ファカルティ・ディベロップメント(FD)のテーマで取り上げることが提唱されました。この流れを受けて、平成29年度は9月1日に医療技術学部、12月18日には法学部、1月24日に薬学部で実施されたFDのテーマに男女共同参画が取り上げられ、日本・本学における男女共同参画の現状や当センターの取り組みについて報告が行われました。各学部の特性に合わせて取り上げ方が工夫されています。

帝京で働く女性のためのカフェタイム

ランチタイムを利用して、女性を中心とした垣根の低いネットワークの場を設けることをと目的に始めたカフェタイムも、平成29年度は3年目を迎えました。当センターも皆様が参加しやすい場になるよう試行錯誤しながら主催していますが、昨年度から毎月8日を「カフェの日」にしました。「8」を横にすると「∞」(infinity)となり、無限の可能性が広がると思ったからです。女性も男性も年齢も国籍も関係なく、それぞれの持つ可能性を無限に広げて、帝京大学をみんながいいきと働き続けることのできる場にしていきたいと思います。(平成29年度カフェタイムは5月8日、6月8日、8月8日、9月8日、11月8日、12月8日、2月8日、3月8日に行いました。)



編集後記

石神井川のほとりに位置する本学板橋キャンパスの一角に、女性医師・研究者支援センターがあります。ここは板橋区内随一の桜の名所でもあり、春の訪れとともにキャンパスは美しい桜色に染まります。厳しい寒さを乗り越えて満開を迎える桜の姿に、女性研究者のみなさんの姿を重ね合わせながら、いつか花咲く日のために、ともに歩みつづけていこうと決意する春の一日です。(洋)

編集・発行

帝京大学 女性医師・研究者支援センター

〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 病院棟 6F
TEL: 03-3964-8456 FAX: 03-3964-8457
Mail: women@med.teikyo-u.ac.jp

